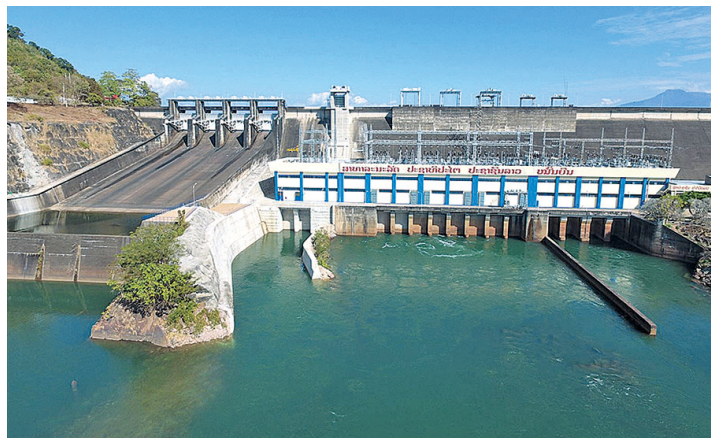


電力需要と治水対策に貢献

ラオスの首都ビエンチャン北方約65キロのタラット地重力式コンクリートダムに区にある「ナグナム第一水力発電所」。1971年に84年に行われた拡張工事



下流側から見た全景

の後、5基の発電機で構成する施設能力は総出力155メガワットだった。総貯水量70億立方メートルという広大な貯水池を持っており、季節調整効果による安定的な発電運用も可能。台風や大雨など洪水が起きやすい季節には、事前にダムの水位を下げて洪水調節容量を確保しておくことができ。施設はラオス電力発電会社（EDL-Gen）が所管・管理する。

ナグナム第一水力発電所 拡張工事 Lot. 1

（ラオス）

ラオスの電力需要は供給能力を上回る勢いで伸びている。同国で電力供給源の大部分は水力発電が占める。乾期と雨期の出力変動が大きく、特に首都圏を含む中部地域では電力需要が急増している。安定した電力供給とともに、エネルギー安全保障の観点からも同国の需要に対応した電源開発となる。そのため同国では今も水力発電所の新規・拡張工事が多様な事業形態で多く展開されている。

今回の「ナムグム第一水力発電所拡張工事」は95年の世界銀行マスタープランで提唱された後、2017年に日本の政府開発援助（ODA）事業に移管され着工した。既設ダム堤体の穴開けにより新たに取水口を設置。6基目となる発電機も新設し発電能力を40メガワット向上させた。



ダム堤体の穴開けは東南アジア初の施工方法を採用し、水中に密閉型仮締切を設置してから施工した。6基目の発電機は稼働中の既設発電所に隣接する非常に狭隘（きょうあい）かつ作業が輻輳（ふくそう）する（LCG）、施工を安藤ハザマが担当した。国際協力機構（JICA）の有償資金協力事業になる。

緊急放水によって
工事エリアが水没

